

## 「わたしが描く未来のふくしま」作文コンクール結果

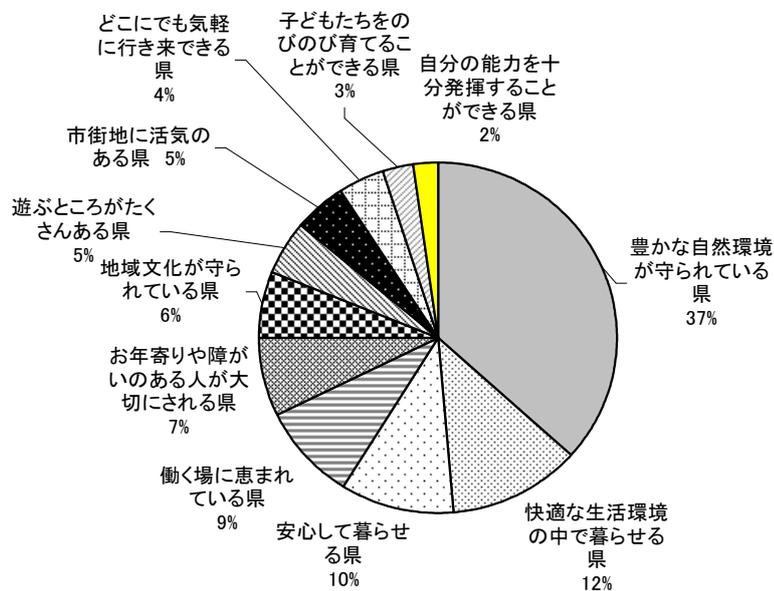
平成20年12月から作文の募集を開始し、1,231名(小学生419名、中学生812名)からの応募があった。

以下はその作文で描かれた未来のふくしまの姿について、11の項目に分類した結果である。

「豊かな自然環境が守られている県」が4割近くを占める。

「緑が多い県」「自然に囲まれた県」など「豊かな自然環境が守られている県」が37%と最も高くなった。シンポジウム会場アンケート結果(16%)や高校生・大学生アンケート結果(16%)と比較しても倍以上の関心の高さである。

次いで、「快適な生活環境が守られている県」(12%)、「災害や犯罪がなく安心して暮らせる県」(10%)、「産業が盛んで、働く場に恵まれている県」(9%)となっている。



豊かな自然環境が守られている県	748
快適な生活環境の中で暮らせる県	239
災害や犯罪が少なく、安心して暮らせる県	212
産業が盛んで、働く場に恵まれている県	182
福祉や医療サービスが充実し、お年寄りや障がいのある人が大切にされる県	148
祭りや伝統芸能などの地域文化が守られている県	123
若者が多く、遊ぶところがたくさんある県	102
買い物が便利で、市街地に活気のある県	97
道路や鉄道などの交通が整備され、どこにでも気軽に行き来できる県	82
教育環境が整い、子どもたちをのびのび育てることができる県	54
自分の能力を十分発揮することができる県	48
その他	185

「わたしが描く未来のふくしま」作文コンクール

テーマ：「わたしが描く未来のふくしま」(題名は自由)

対象：県内在住の小学生(5、6年生)及び中学生

原稿：400字詰原稿用紙2枚以内

賞：小学生の部 最優秀賞1編、優秀賞4編

中学生の部 最優秀賞1編、優秀賞5編

(平成21年3月27日 知事表彰)

# 「わたしが描く未来のふくしま」作文コンクール 主な意見

## <基本目標>

- 地域の宝の発掘・発信
- 帰ってきたい場所
- ほっとするふるさと
- やっぱり福島県
- 自然環境と発展のバランス
- このままの福島県
- 私たちが未来の福島を作る
- 良い環境を子ども達の世代にも残していきたい

## <めざす将来の姿>

### (1)いきいきとして活力に満ちた「ふくしま」

- 都会になってほしい
  - ・ たくさん的高層ビル・デパート・工業ビル・未来の施設・ジェットコースター・動物園
  - ・ みんなが楽しく遊べる場所、観光スポットを建ててみんなが笑顔になったらいいと思う。
  - ・ 東京のように、人でにぎわう明るい福島
  - ・ 駅前が明るくなれば全体が明るくなる。
  - ・ 公共事業を増やす。
  - ・ 宮城県を超えるような県になる。
  - ・ 日本の首都となり、経済的にも社会的にも大きく発展。
- 農業大国
  - ・ 日本の農業を担う力を持っている福島県
  - ・ 食の安全。自給率を上げてほしい。
  - ・ 今こそ農業へ目を向けるときが来た。
  - ・ 学生に農林業の大切さ・面白さを伝え、支援をして少しでも多くの若手を集めるべき。
  - ・ 農業を学校の行事の一つに
  - ・ 野菜がどのようにして作られているか知っているだけで変わることがたくさんある。
- 日本へ、世界へPR
  - ・ 福島はいい所がたくさんある。キレイにして、もっとうまく宣伝すればもっとよくなる。
  - ・ 知られていない長所を他県の人に知ってもらいたい。
  - ・ いいところがいっぱいあるので、もっと主張してはどうか。
  - ・ 良いところの発掘とPRで、誰もが知っている県に
  - ・ 積極的なPR活動により、全国の人が憧れる県に
  - ・ 全国ネットになるような番組をつくり、福島県出身の芸能人を司会者にする。
  - ・ 福島県代表の学校が、1か月ごとに決められて、全都道府県に福島県をPRしに行く。

## ○観光

- ・ 福島の観光はもっともっと成長できる。
- ・ 住んでいる私たちが楽しんで、自信を持って、アピールしたい。
- ・ 活気を出すには「食」と「自然」。福島の果物を全国に。花見山は観光名所の筆頭。
- ・ 他の県の人に来てもらい目で見て福島の良いところを少しでも教えてもらう。
- ・ スキー場も有名なので、外国からの客が来て活性化。
- ・ アジアの人に、もっと福島を知ってもらい、来てもらいたい。

## ○伝統文化の継承

- ・ 身近な子守唄、たくさんのわらべ歌や民謡は、私たちの遠い先祖から受け継がれてきた貴重な文化遺産。
- ・ 活気がないのは伝統文化が減少しているから。
- ・ 伝統と新しいものの組み合わせで活性化
- ・ 地方独特の訛がその地域を温かくする。

## ○日常生活にさりげなく溶け込んでいる福島の宝を発見

- ・ もう一度身近にあったものに目を向けてみるべきだ。

## ○スポーツを通して活気ある街づくり

- ・ プロになる選手をたくさん生み出す県
- ・ スポーツによって福島は変わる。
- ・ スポーツが盛ん→多くの人と触れ合い、交流が増える→ストレス発散→いじめの解消

## ○私たちの未来を支えるのは私たち

- ・ 私たちが未来の子どもに伝え、その子どもがその子どもに伝えればそれがどんどん続く。
- ・ 未来の子供たちのために未来の福島を守りたい。
- ・ 私達が今どれだけいい町を作るかによって、これからの福島がどんどん変わっていく。
- ・ みんなの夢を見るとわたしも夢を持てる。このみんなの夢こそが「夢が溢れる」パワーである。
- ・ 作文を書いて、ただ考えるだけではなく、僕らが福島県を作っていくかなくてはいけないと思った。
- ・ 福島の未来は私だけでなく、福島を愛している多くの人達の努力から切り開かれるのだ。
- ・ 県民全員が一つとなれば、福島県の未来は少しずつ変わる。
- ・ 県民一人一人がもっと積極性を持つこと
- ・ 福島を知り、他地域に福島を伝える、これこそが、私たちの手で福島をより良い故郷・地元にすること。

## (2)安全と安心に支えられた「ふくしま」

### ○弱者に優しい県

- ・ 老人に優しい、子どもから老人まで笑って暮らせる県
- ・ お年寄りや障がいのある人はもちろん、みんなにアンケートをとり、不便だと思う場所を便利にするといい。

### ○事故や事件がない県

- ・ 犯罪ゼロの県
- ・ 警察官を暇にする計画。サイレンの音が聞こえない県に。
- ・ 子供達が防犯ブザーを持たなくても安全に歩ける街
- ・ 犯罪をなくすにはいじめをなくせばいい。

### (3)つながりと思いやりにあふれた「ふくしま」

#### ○自然が豊かで緑あふれる福島

- ・ もっと明るく、楽しく、緑あふれる福島になる。
- ・ 豊かな自然が広がる町、福島を見習うべきだと言われる町になってほしい。
- ・ 仙台や東京にはないよさがある。緑あふれる福島にずっといたい。
- ・ 福島県を神奈川県と交換してみたら、木の良さを知ってもらえるのに。
- ・ まずは自然に興味を持ち、多くの関わりを知ること。
- ・ エコや発電が盛んな福島
- ・ 自然を汚さないためにはボランティアを出して県民一体で自然を守っていかなければならない。
- ・ 一度壊してしまった自然を取り戻すのは大変な手間と時間がかかってしまう。
- ・ 私たちはすでに遅い事を知りつつも、この福島県に謝らなければならない。

#### ○いつまでも変わらないでいてほしい

- ・ 昔から変わらぬもの、福島
- ・ 今の福島＝未来の福島になってほしい。
- ・ 都市化の抑制。東京都自体の環境はあまり良くない。
- ・ 「東京じゃなく、やっぱり福島県」と言われる県になりたい。
- ・ 東京以外の地域にも目を向けて、日本にはもっといいところがあるということを分かってもらいたい。
- ・ 田舎だということは日本の本当の姿が残せていること。
- ・ そのままというのを残すことは結構大変。

#### ○都会と田舎のバランス

- ・ 沢山の緑がある中に、高層ビルが立ち並ぶ、自然と近代化の共存した県。
- ・ 自然を残しつつも、都市化していくこと。
- ・ 今のままでは何かと不便だが、東京のような大都会になっても困る。
- ・ 色々な建物を増やして行ってほしいが、都会になるのはダメ。バランスを保つ。
- ・ 地球を守る緑とひきかえに、地域の活性化を求めるようではだめだ。
- ・ 自然が多くていいので、それを壊さない程度に施設や店などを作ってほしい。
- ・ 施設やお店が増えてもそのままの福島が残っていたらいいな。
- ・ 近くて便利な田舎
- ・ 大きな店を建てて活性化させるのもよいが、今ある自然を大切に、  
蛍の見える県として人を呼ぶのもいいのでは。
- ・ 変わってほしくないが変わらなきゃいけないこともある。
- ・ 住みよい県を求めすぎると、大切な自然や伝統まで失ってしまう。

#### ○温かい人柄

- ・ 当たり前前が当たり前前にできる町
- ・ 一人ひとりの心が優しくなれば、問題は全て解決する。
- ・ 福島県民はみんな優しくいい人でいてほしい。
- ・ まとまりがあり、みんなを仲間と思うことができる、いつでも協力できる福島。
- ・ あいさつが出発点
- ・ 「我が敵は我にあり」
- ・ 譲り合う福島県
- ・ 地域の人達との仲を深めたい。地域活動による明るい県づくり。